心の豊かさを求めて
健康講座「健康と性について」

開催日　平成14年10月19日

講　師　本学助教授　小　野　一　男

はじめに

性は単に本能的なものだけでなく人間の交流の中で生きていることから、文化的な基盤であり、むしろ「性は文化である」と言うことができます。21世紀は個の生活の質（QOL）が問われる時代であり、性はQOLの鍵の一つとして健全な形で生活の中で位置づけねばなりません。健康は健全な性との一致により創られ、健全な性は身体の性のみならず心の性と一体となったものです。ただ、性にも光と影があり、近年、性の影の面が社会病理として問題となってきています。

健康の定義

WHO憲章では身体的、精神的および社会的に完全に良好な状態をいい、平和と安全を達成する基礎であると定義しており、日本国憲法25条１項では、すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するとし、２項では国の社会保障的義務を課しています。

性の定義

漢語の「性」は両性を包括し「性向」をも意味し、英語の「Sex」のラテン語源は「分割・分離」で生殖を目的とした自然的素質をいい、また、「Gender」のギリシャ語源は「発生・生殖」をいい、歴史的・文化的性格を担います。

性とは物理・生理学的な体質としての「生」と心、心理の性質としての「忄」を示し、身・心の相関を表します。すなわち、性行為を表す狭義の意味でなく、セクシュアリティーという全個人の全人格と生涯を包括した概念でとらえなければなりません。

性の社会学

性の規範は西欧ではキリスト教とりわけカトリックにより、わが国では儒教の精神構図の枠（伝統的理念で求心的に枠付けされた性意識と制裁）で規定されてきました。戦後の平均的日本人の性概念は、表層は感性的な虚像（性の規範への反動や性の氾濫）を示しながら、深層は従来の理念化された実像を有する二重構造となっています。性革命は1960年代後半のヒッピー運動（米国）の台頭が始まりとされ、「性の開放」の社会現象を生みました。わが国の性革命・性解放の社会現象としては、性意識の多様化と性行動の自由化や生殖の性からの開放（経口避妊薬の普及）および性の商品化などが挙げられます。そして、その要因としては、前述の性革命・性の解放とともに①近代化による社会規範の変化、②家族制度の崩壊による家族機能の変化、③マスコミの影響などが考えられます。これらは高学歴化による経済的自立に伴う従属的な生き方からの脱却、性別の観念のうすれ、結婚観の多様化などと相乗して、女性の性に対する意識と行動に大変化をもたらしました。そして、性の社会病理、性の影の一つとして、性感染症が人類最大の感染症として登場してきました。

性感染症 Sexually Transmitted diseases（STD）の動向

STDとはSexによってうつる病気の総称で、その病原体としてはウイルス、細菌、寄生虫など多くの微生物が挙げられます。とりわけエイズ（AIDS）と性器クラミジア症は無症候性STDの双璧で、世界的な流行状況にあります。とりわけ、性器クラミジアの感染率は10、20代の年齢階級層が最も高く、不妊の大きな原因となることから大きな社会問題となっています。AIDSについては現在の世界におけるHIV（免疫不全ウイルス）感染者が3,610万人（2000年の新規感染者が530万人、死亡者が300万人）と人類の存亡にかかわる問題となってきています。わが国における今日までの累計感染者は約3,000人を数え、年々増加の一途をたどっています。先進国で増加傾向にあるのはわが国のみであり、将来の大流行が危惧される状況にあります。

長寿社会における健康と性

今日の長寿社会ではいかに健やかに老いるのかが命題であり、高齢者のQOLには健康と性がキーワードで、心豊かな健やかな生活には愛と性は重要な要素となります。性と生は表裏一体の関係にあり、豊かな性がQOLの鍵です。男として、女として、体を温め合い、生き物として生命感覚を味わい合い、お互いの性と生に向き合うのがWHOが定義する前向きな健康であり、健やかな性ではないでしょうか。21世紀、人生100年時代を迎え、いかに高いQOLを創出できるかが、社会的、医学的課題です。